

# 令和7年度 第1回八代市総合教育会議 会議録

(令和7年7月18日)

## 令和7年度 第1回八代市総合教育会議 会議録

【開催日】 令和7年7月18日（金）

【場所】 八代市役所 3階 庁議室

【出席者】 中村博生 市長  
中 勇 二 教育長  
渡邊裕一 教育委員  
早田 蛍 教育委員  
澤村 互 寛 教育委員  
丸山 智 子 教育委員

【出席職員】 田中 智 樹 教育部長  
下津 恵 美 教育部次長  
鋤田 敦 信 教育部次長  
押方 佐地子 教育政策課長  
緒方 義 久 教育政策課長補佐兼ICT教育推進係長  
本田 克 弘 教育政策課ICT教育推進係指導主事  
加賀 真 一 学校教育課長  
黒木 崇 博 学校教育課審議員  
渡瀬 洋 学校教育課指導主事兼保健体育係長  
稲本 健 一 教育部理事兼教育施設課長  
泉 宜 孝 生涯学習課長  
中村 裕 一 教育サポートセンター所長  
田島 良 洋 博物館未来の森ミュージアム副館長  
山崎 撰 博物館未来の森ミュージアム審議員兼学芸  
係長  
植田 浩 之 未来の学校づくり推進室長  
宮川 武 晴 市長公室長  
中川 順 一 秘書広報課長  
秋田 大 助 国際課長  
村橋 咲 紀 国際課政策推進係長

【事務局】 池田 拓 次 教育政策課主幹兼教育政策係長  
松本 和 美 教育政策課上席参事

【協議事項】 (1) 「第2次八代市総合計画第2期基本計画八代市重点戦略  
(教育関係)」について  
① 「ICT教育日本一」を目指し「学校情報化優良校」認定

率100%を達成

- ② 学校トイレ洋式化の推進など安全・安心で快適な教育環境の整備
- ③ 人生100年時代に向けたリカレント教育の支援

(2) 次期の重点施策（教育関係）について

～今年度策定する教育進行プランに位置付け、取組を推進していく事項～

- ① ICT教育の推進、部活動の地域展開、学校再編
- ② グローバルな視野を持つ人材の育成について

1 開 会 (午前10時00分 開会)

2 市長あいさつ

3 協議事項

(1) 「第2次八代市総合計画第2期基本計画八代市重点戦略（教育関係）」について

① 「ICT教育日本一」を目指し「学校情報化優良校」認定率100%を達成  
押方教育政策課長 資料により説明

② 学校トイレ洋式化の推進など安全・安心で快適な教育環境の整備  
稲本教育部理事兼 資料により説明  
教育施設課長

③ 人生100年時代に向けたリカレント教育の支援  
泉生涯学習課長 資料により説明

<質疑応答>

丸山教育委員 学校訪問をすると、トイレの洋式化工事が進んでおり、すでに完了して美しいトイレ空間になっている学校や、現在まさに工事が進められている学校もあり、当初の計画よりも前倒して工事が進捗していることを大変喜ばしく感じている。

資料を見ると、一部の学校では全面改修と部分改修の両方に記載があるが、どのような区分になっているのか。

稲本教育部理事兼 校舎内にあるトイレについては、原則全面改修で行っているが、小規模校で校舎内トイレが比較的きれいな場合は、部分改修で対応している。また、屋外トイレ、体育館トイレについても同じく部分改修で対応している。

- 澤村教育委員 学校トイレの改修は今年度が最終年度となっているが、多くの学校で環境が改善されていると実感している。改修によるメリットについて、どのようなものがあるか。
- 稲本教育部理事兼  
教育施設課長 学校からは、きれいになった、臭いが軽減されたという声が届いている。また、ほとんどの家庭で洋式トイレが普及しているため、和式トイレに慣れていない子供たちが学校では和式トイレを使わないという状況もあった。今回の改修で、全て洋式トイレとなるため、利便性が大幅に向上したという声もいただいている。
- 澤村教育委員 子供たちが家庭と同じ環境で、精神的に安心してトイレを使用できることは大変良いことだと思う。私自身の経験からも、和式トイレは冬場に感染性腸炎発生のリスクがあると感じていた。きれいになり掃除がしやすくなったことで、衛生面・健康面でも大きな改善があったと思う。
- 田中教育部長 これまで、学校で和式トイレを使用せず、帰宅するまで我慢をする子供たちもいたようだ。洋式トイレになったことで我慢することがなくなり、健康面も改善されたと思う。  
また、保育園などでは、就学前教育として、和式トイレの使い方を学ぶことがある。これからは家庭、保育園、学校のどこでも洋式トイレを使用できるようになるため、幼児教育から小学校へのスムーズな接続ができるのではないかと考えている。今後も継続してこの取組を進めていきたい。
- 中村市長 当初の計画からどれくらいの前倒しとなったのか。
- 稲本教育部理事兼  
教育施設課長 当初の計画としては、令和9年度以降の完了になると見込んでいたが、建設業界の協力もあり、今年度中に完了する予定となっている。
- 田中部長 今年度の進捗が、計画当初60%程度になる見込みだったことを考えると、大幅に前倒しできた。夏季休業等の長期休業中にしか工事ができないという制約があり、また補助金の目処が立たない状況でもあったことから、学校側と協議し、補助金を待たずして、部分改修という形で進められたことが、全体のスピードアップに繋がった。
- 早田教育委員 ICT教育日本一を目指す取組について、市内外の学校訪問

をする中で、まだICTの活用がすごいと感じるレベルにはないと感じている。3年前に市外の学校で観たICTを活用した授業に感銘を受けたことがある。しかし、そのレベルの取組が、本市の学校で展開されているのをまだ目にしたことがない。

学校情報化優良校の認定が100%を達成したという話は、ここ数年の会議で耳にしており、これはICT教育の土台作りがしっかりと整ったことだと理解しているが、実際に各学校でのICTを活用した教育がどれだけ進んでいるかを考えると、まだまだ積極的に推進していく必要があると感じている。

現在、本市の教職員に対するICT関連の研修や、支援体制はどうなっているか伺いたい。

本田教育政策課ICT教育推進係指導主事

学校情報化優良校の認定基準は年々引き上げられており、今年度、再認定申請するも基準に満たず再申請を行った学校が5校あった。

また、GIGAスクール構想におけるICT活用も変化している。以前は教師がICTをどう授業で使うかに焦点が当たっていたが、現在は、子供たち一人一人が授業の中でICTをどう活用するかに重点が置かれている。

現在、教育委員会では、各学校からの依頼に対し、授業における子供たち一人1台のタブレットの効果的な活用の特化した研修を提供している。

緒方教育政策課長補佐兼ICT教育推進係長

昨年度は、集合研修としてソフトウェアの使い方に関する研修を6回開催した。加えて、各学校へ出向いての研修を30回実施した。

早田教育委員

多くの研修を実施されているとのことだが、研修を受けた学校からのフィードバックはどのように得ているか。具体的に、研修内容を参考に活用した事例などが共有されているか伺いたい。

本田教育政策課ICT教育推進係指導主事

現在、夏季休業中に研修を進めることとしており、10月31日に予定されている金剛小学校での研究発表を参考にしてみよう機会もある。また、いくつかの学校を訪問し、実践的な研修を行う予定となっている。そのため、各学校においてICTを活用した取組が本格的に動き出すのは2学期からとなる見込みである。

田中教育部長

ご心配のとおり、学校間でICT活用の温度差があるのは事

実である。教育委員会では、毎年ICT教育推進校を指定しているが、今年度は金剛小学校を推進校としており、ICTを使った公開授業を予定している。多くの先生方が視察に訪れることで、学校におけるICT活用が更に進むことを期待している。

また、来月は中学生議会が予定されているが、第七中学校の生徒から「タブレットを活用した学習が本当に定着し、効果があるのか」「学校情報化優良校とは何か」といったICTに関連した質問が出ている。これらの質問の回答として、まず、タブレット導入については、子供たちが豊かな人生を切り拓くための生きる力を身につけることを目的としたGIGAスクール構想に基づいていること、学習効果の定着については、全国学力・学習状況調査の結果でも、タブレットを活用している学校のほうが正答率が高いというデータが出ていること、また、授業の振り返りとして、タブレットを活用し、eライブラリーや小テストを行っていること等を分かりやすく説明したいと考えている。

一方で、子供たちからは、タブレットの動きが悪い、一斉に使うとインターネットに繋がらないといった意見も出ており、実際にそのような現象も確認されており、導入から5年を迎えることから、来年度以降は新しいタブレットの導入を予定している。

今後も、子供たち自身がタブレットを使った新しい学習方法やアイデアを、クラスの仲間や先生と一緒に考えて取り組めるよう促していきたいと考えている。

早田教育委員

推進校に指定された学校の先生方が熱心に研究され、良い授業をされていることは承知しているが、その取組が1年限りで終わることなく、市全体に広がり、継続していくような仕組みがあれば、更に良いと感じた。

中教育長

先週の文政小学校への訪問において、本年4月に本渡の小学校から異動されてきた先生の授業が印象的だった。そのクラスでは、子供たちが一人1台のタブレットを使いこなしており、わずか4ヶ月という短期間でICT環境に順応している様子が伺えた。既存の機器で十分対応できていることから、今後は、ICTを活用しようとする先生方の意識改革が最も重要であると認識している。

早田教育委員

IT講座を数多く開催されていることは、素晴らしい取組だ

と認識している。これらの講座が八代の歴史文化の学習や、地域課題の解決に繋がるような取組があれば教えていただきたい。

泉生涯学習課長

生涯学習課では、多様な講座を提供しており、その中にはリカレント教育の一環として歴史講座も含まれている。これらの講座は、地域の歴史に精通した講師がいれば、開催の機会もあり、図書館との連携のもと実施することもある。

昨年度は、坂本町において博物館と提携し、坂本の文化を知ろうと題した講座を開催した。

中教育長

I Tと歴史文化を繋げるような講座については、今のところ開催していない。

## (2) 次期の重点施策（教育関係）について

～今年度策定する教育振興プランに位置付け、取組を推進していく事項～

### ① I C T教育の推進、部活動の地域展開、学校再編

押方教育政策課長 資料により説明

渡瀬学校教育課指導主事兼保健体育係長 資料により説明

植田未来の学校づくり推進室長 資料により説明

### ② グローバルな視野を持つ人材の育成について

加賀学校教育課長 資料により説明

秋田国際課長 資料により説明

### < 質疑応答 >

渡邊教育委員

まず、I C Tの活用については、先生方の意識改革を促すためにも、教育振興プラン策定において、学び方改革の基盤としてのI C T活用の位置付けを明確に打ち出していきたい。今後の具体的な活用方法としては、英語教育、郷土学習、不登校対策、日本語指導、更に、特に課題となっている少人数学級をオンラインで繋ぐなど、多様な工夫が大事だと思う。そして、これらを推進していくためには、確実な予算化が不可欠だと考

えるのでよろしく願います。

次に、学校再編について、答申に基づいた方針や計画の検討にあたっては、市長と教育長の意図が確実に具現化されるよう、進めていただきたい。

また、外国語教育について、実態調査の結果から中学校の英語の学力が課題であることは認識していたが、小学校段階から「英語が好きか」という点で課題が見られることが分かり、何とかしないといけないと感じた。このままでは、中学校進学後の学力に影響すると思われるので、この小学校での課題を分析し、今後の指導に活かすことが重要だと考える。

最後に、国際交流について、私自身の経験からも、外国の学校や子供たちの生活を知ることが、子供たちの関心を高め、互いの違いを認識し尊重する良い機会となる。今後は、事前のオンライン交流で相手校の子供たちと繋がる機会を設け、現地でのスムーズな交流に繋げることや、帰国後にはその学びが各学校に広がるような工夫を期待する。

秋田国際課長

コロナ禍で中断していた北海市への小中学生派遣を来年度以降再開出来ればと考えているので、本日いただいたご意見を参考にさせていただきたい。

中村市長

事前交流は現地での交流を一層深めるために大事なことであり、また、帰国後の学びの定着も重要だと思う。

これまでの国際交流事業において、事前・事後指導の具体的な取組事例はあるか。

村橋国際課政策推進係長

過去の事例では、事前のオンライン交流の実績はないが、事後報告については、一部の学校で全校生徒に対し発表する機会を設けていただいたことがあり、子供たちの生の声を聞く貴重な機会となった。これらの発表は、私たち大人にとっても多くの学びがあり、先生方からも、こうした発表の機会は非常に重要であるとのことをご意見をいただいている。

委員からのご指摘も踏まえ、今後、国際課としても学校と協議を重ねながら、このような学びの場を更に増やせるよう、取り組んでいきたいと考えている。

早田教育委員

部活動の地域展開に関して、現段階でどのような課題や懸念があるのか伺いたい。

また、学校再編については、大まかなイメージは把握できたが、具体的な方向性や現時点で想定されていることはあるか。

加えて、今年度予定されている小中学校訪問について、具体的にどの学校を訪問されるのか教えていただきたい。

渡瀬学校教育課指導主事兼保健体育係長

中学校の部活動改革を進めるにあたり、教育委員会が現在取り組んでいる、ステップ1、拠点校部活動・合同部活動は、学校部活動の段階であるため、学校現場の負担を懸念している。そのため、学校間の連携を密にし、サポート体制を強化していきたいと考えている。

また、地域展開を進める上での指導者確保も大きな課題となっているため、拠点校となる学校には、顧問の先生だけでなく、外部からの指導者を派遣できるよう、各協会・連盟とのヒアリングを実施しており、今後も、連携を密にしていきたい。

植田未来の学校づくり推進室長

学校再編については、現在、全市的な再編を検討するという答申に基づき、方針素案の準備を進めている段階である。今後、パブリックコメント、アンケート、地域懇談会などを経て、具体的なイメージを形成していくことになるが、本市における学校の立地条件は多様であるため、それらを考慮しながら検討を進めていかなければならず、現時点では具体的な再編の形はまだ決まっていない。

学校訪問については、全校訪問を予定している。昨年12月から訪問を行っているが、校長先生方からは学校再編に関する率直な意見を頂いている。再編の話を進めた場合の地域の反応等情報共有を行っている。

多くの自治体と同様に、学校再編の話を進める際には、地域から様々な意見が出ることが想定されるため、その点を心構えとして持ち、今後も慎重に進めていく必要があると考えている。まだ学校内部の状況を把握しきれていない部分もあるため、全校訪問を通して理解を深めていきたい。

丸山教育委員

まず、ICT教育に関しては、令和2年度の一人1台端末導入から4年が経過していることから、より早期に次の段階へ進むべきだと思う。そのためには、ハードウェアの整備だけでなく、先生方の意識改革が重要である。教育政策課の指導主事には精力的に指導いただいているが、今後は、学校教育課とも是非連携をお願いしたい。

次に、外国語教育については、渡邊委員も指摘されたように、英語を好きではないと感じる子供の割合が増加していることは、全国や県との比較よりも深刻な問題であると感じる。好きでないと学習意欲も湧かないため、この状況を改善するには、

学校教育課で実施しているスペシャルイングリッシュタイムのような取組が大事になってくると思う。回数の増加や、短時間でも良いので、このような時間が充実されることを希望する。

国際交流における子供たちの派遣については、私が担当していた当初、教育委員会の理解を得るのに苦労したことがあった。しかし、今は中断を挟みながらも継続されているとのことで非常にうれしく思う。過去を振り返ると、中国語が話せなくても、習った英語でコミュニケーションが取れたことで、子供たちが喜び、その後の英語学習への関心を高めるという良い事例もあるので、このような取組を有効に活用し、今後も国際交流を進めてほしいと願う。

中村市長

英検 3 級相当以上の取得率が 2 % 程度の伸びに留まっている現状を見ると、最低でも 10 % 程度の向上を目指すべきだと考える。高学年になるにつれて英語学習への意欲が低下している傾向があり、部活動の影響も考えられるが、この状況は改善しなければいけない。

私自身の経験からも、海外を訪れると英語の必要性を強く実感する。英語塾の費用助成といった支援策についても検討してみてはどうか。

加賀学校教育課長

英語力の向上は、県全体、特に本市においては大きな課題であると認識している。現在、ALT によるスペシャルイングリッシュタイムの活用を積極的に推進しており、昨年度と比べて活用する学校が大幅に増加した。

ALT と直接、緊張感のある生の会話を経験することで、子供たちがコミュニケーションの楽しさを感じながら英語学習に取り組めるよう願っている。

まずは学校教育として着実に努力を重ね、確実に英語力が伸びるよう、教育委員会としても全力で支援していきたい。

田中教育部長

今回は、ICT 教育、英語教育、学校再編、部活動の地域展開、そして国際交流といった、教育委員会が今後取り組むべき主要な項目について説明させていただいた。これらは喫緊の課題であり、次期の教育振興プラン、更には本市の総合計画における重点施策と展開していく上で、大きな柱になると考えている。

特に、国際交流においては、英語力の向上と ICT を活用した交流の継続が重要である。また、学校再編については、中学

校部活動における拠点校や合同部活動の取組を通じて、再編の動きにも繋げていきたいと考えている。

今後も、このような形で次期の教育振興プランの計画を示していきたいと考えているので、市長部局とも緊密に連携していきたい。

#### 4 その他

教育施設課

学校トイレ改修の様子について写真紹介

博物館未来の森  
ミュージアム

特別展「文武に生きた筆頭家老・松井家ただいま参上！」について紹介

事務局

第2回総合教育会議について（10月頃の開催予定）

#### 5 閉会

（午前11時45分 閉会）